

[タイム] 栗子トンネル入口(13:45)→左俣出合(13:55)→終了(14:50)

## 7. 八溝山周辺の沢

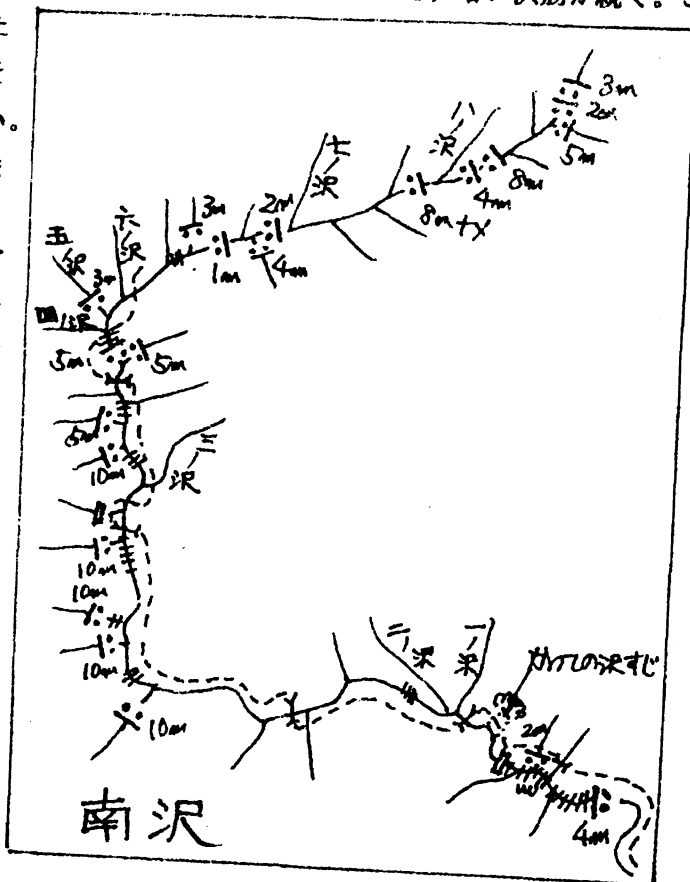
宮川・南沢 1986年6月1日  
Li

山本不動尊に参詣する人達にジロジロみられるのを無視して、早足で通り過ぎる。宮川左岸にはずっと踏跡が続いている。北沢出合の少し先まで進んだら、左下に4mの滝が見えてきた。我慢できずに沢に降りる。

F<sub>1</sub>は右岸と左岸からそれぞれのルートで直登して上にでる。沢は花崗岩質で、ナメが随所に出てくる。ずっと深い樹林帯の中を進むので、暗い沢筋が続く。これで滝が出てきてくれたら申し分ないのだが、そこまではうまくゆかない。平凡な沢筋となってしまった。

沢が徐々に右にカーブするようになる頃、左右から合流する支沢はいずれも10m前後の滝をかけて合流するようになる。本流の方に滝はかからないが、先が少し楽しみになってきた。

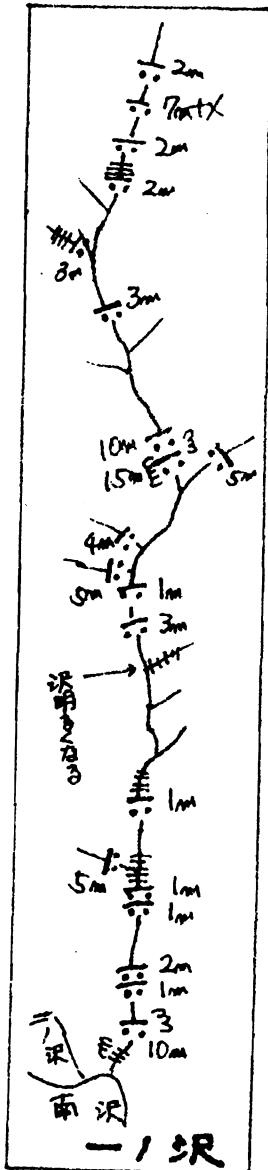
やがてF<sub>2</sub> 5mに着く。右岸を捲いて越す。このあたりまでくると、沢ぞいに続いていた踏跡はかなり荒れてきていて、橋



などは流失しているものが多くなってきた。

このまま終わってしまうのかなあと考えていたら、滝が出てきた。まず8mナメ滝。そして4m、8mと間をおいて出てくる。しかし、通過には特に困難はない。

ここを通過するともう源流部である。それとともに岩質が変わる。花崗岩質の沢床であったのが、黒い岩主体となった。第三紀層か。ともかくもう遊行も終わりに近い。最後の支沢を左に分けて少し進むと、水もなくなる。そのまま10分程



つめ上げて、大笹山やや北方の尾根上に出た。全体に平凡であるが、この地域の沢としては、まあこんなものではなかろうか。

(1)

[タイム] 山本不動尊(8:45)→北沢出合(9:00)→南沢遊行開始(9:05)→一の沢出合(9:25)→六の沢出合(10:50)→大笹山北方稜線(12:20)

### 南沢支流一ノ沢

1986年7月5日

山本不動尊の駐車場で仮眠し、早朝から行動開始。人気のない不動尊境内を横切り、今は荒れ果ててしまった林道を歩いて、25分で一ノ沢出合に着く。ここで沢に入る。

一ノ沢の出合は、小さなナメが続く。沢筋は比較的暗く、花崗岩質のため、フリクションがよくきく。すぐに10m滝が出てくる。右岸を直登。一部シャワーとなり、中段ではホールドを探すのにちょっと手間取った。

幸先が良いと勇んで歩きだしたが、このあとは明るい沢筋となって、1~2mの小滝しかでてこない平凡な沢筋となる。おまけに右岸から支沢が合流した後はキイチゴの多いブッシュが沢筋まで茂ってきていて、非常に歩きづらくなった。

やがて再び右岸から支沢が合流する。すると、再び暗い沢筋となり、ブッシュもなくなって歩きやすくなった。

左右に次々と支沢を分けるようになって、いよいよ源流かと思われるころになって、突然目の前に10mの落差をもつ滝